



環境経営情報開示 シナジー/トレードオフとネーチャーポジティブ評価

大成建設株式会社
サステナビリティ総本部
佐々木 緑

1. 大成建設グループの概要

グループ理念「人がいきいきとする環境を創造する」



設立

1873年



従業員数

16,382人



売上高

21,542億円



基幹協力会社（倉友会会員）数

623社

「地図に残る仕事。」



札幌ドーム（2001～）

旧 国立競技場（1958）



富士山南陵工業団地（2010～）






国立競技場（2019年11月）



2. グループ長期環境目標「TAISEI Green Target 2050」

持続可能な環境配慮型社会の実現に向け、グループ長期環境目標「TAISEI Green Target 2050」を定め、「3つの社会の実現」と「2つの個別課題の解決」を目指しています。

■「3つの社会」の実現に向けた目標

	 脱炭素社会	 循環型社会	 自然共生社会
2050年 目標	<p>カーボンニュートラル(CN)の 実現・深化</p> <ul style="list-style-type: none"> • スコープ1+2 CO₂排出量ゼロ • スコープ3 サプライチェーンCO₂排出量ゼロ 	<p>サーキュラーエコノミー(CE)の 実現・深化</p> <ul style="list-style-type: none"> • グリーン調達率100% • 建設副産物の最終処分率0% 	<p>ネイチャーポジティブ(NP)の 実現・深化</p> <ul style="list-style-type: none"> • 建設事業に伴う負の影響の最小化 • 自然と共生する事業による正の影響の 最大化
2030年 目標	2022年度比 CO ₂ 排出量		<ul style="list-style-type: none"> • グリーン調達の推進 • 建設廃棄物の最終処分率3.0%以下 <p>ネイチャーポジティブに貢献する、</p> <ul style="list-style-type: none"> • プロジェクトの推進 50PJ/年以上 • 評価手法の展開 設計施工プロジェクトのうち30%に適用 • 海洋課題への対応
	スコープ	総排出量	
	1+2	▲42%	
	3	▲25%	

■「2つの個別課題」の解決に向けた取り組み目標

 森林資源・森林環境	 水資源・水環境
<ul style="list-style-type: none"> • 森林破壊ゼロを前提とした木材調達により森林資源・森林環境への負の影響を最小化 • 保全と再生に取り組み、森林資源・森林環境への正の影響を最大化 	<ul style="list-style-type: none"> • 適切な管理の徹底と使用量の削減により水資源・水環境への負の影響を最小化 • 保全と再生に取り組み、水資源・水環境への正の影響を最大化

3. 指標と目標（環境関連）

		基準年	実績	目標		
脱炭素社会(グループ全体 ^{※1})		2022年度	2024年度	2026年度	2030年度	
CO ₂ 排出量削減目標 (2022年度比)	スコープ1+2	総排出量 (千t-CO ₂)	318	305	261	184
		削減率	-	▲4%	▲18%	▲42%
		原単位排出量 (t-CO ₂ /億円) (売上高あたりのCO ₂ 排出量)	18.7	14.4	13.8	8.8
		削減率	-	▲23%	▲26%	▲53%
	スコープ3 カテゴリ1+11 ^{※2}	総排出量 (千t-CO ₂)	7,458	5,393	-	5,593
		削減率	-	▲28%	-	▲25%
循環型社会(大成建設単体)						
建設廃棄物最終処分率		-	2.9%	3.0%以下	3.0%以下	
自然共生社会(大成建設単体)						
ネイチャーポジティブに貢献するプロジェクトの推進		-	51件	50件以上	50件以上	
ネイチャーポジティブ評価手法		-	評価 ロジック 完成	評価手法の確立・ 運用開始	設計施工 プロジェクトの 30%に適用	

※1 対象会社:大成建設㈱、大成ロテック㈱、大成有楽不動産㈱、ピーエス・コンストラクション㈱、大成ユーレック㈱、大成設備㈱、成和リニューアルワークス㈱、
㈱ジェイファスト、大成建設ハウジング㈱、㈱佐藤秀

※2 2023年度よりカテゴリ1及び11の算定方法を見直したため、同様の算定方法で2022年度の排出量を再算定。詳細は当社Webサイト大成建設のマテリアル
フロー内注釈をご覧ください

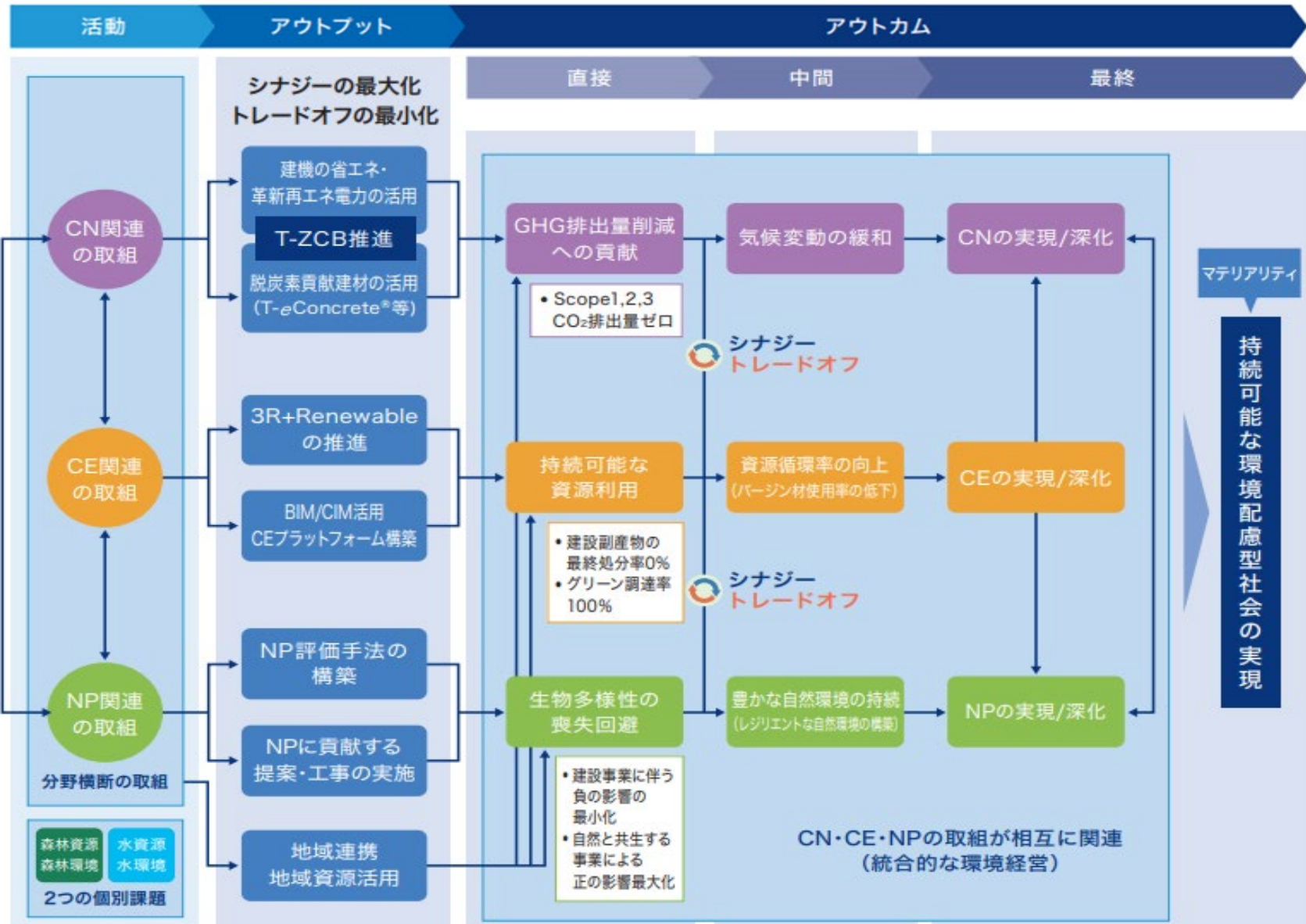
3. 指標と目標（環境関連）

		基準年	実績	目標		
脱炭素社会(グループ全体 ^{※1})		2022年度	2024年度	2026年度	2030年度	
CO ₂ 排出量削減目標 (2022年度比)	スコープ1+2	総排出量 (千t-CO ₂)	318	305	261	184
		削減率	-	▲4%	▲18%	▲42%
		原単位排出量 (t-CO ₂ /億円) (売上高あたりのCO ₂ 排出量)	18.7	14.4	13.8	8.8
		削減率	-	▲23%	▲26%	▲53%
	スコープ3 カテゴリ 1+11 ^{※2}	総排出量 (千t-CO ₂)	7,458	5,393	-	5,593
		削減率	-	▲28%	-	▲25%
循環型社会(大成建設単体)						
建設廃棄物最終処分率		-	2.9%	3.0%以下	3.0%以下	
自然共生社会(大成建設単体)						
ネイチャーポジティブに貢献するプロジェクトの推進		-	51件	50件以上	50件以上	
ネイチャーポジティブ評価手法		-	評価 ロジック 完成	評価手法の確立・ 運用開始	設計施工 プロジェクトの 30%に適用	

※1 対象会社:大成建設㈱、大成ロテック㈱、大成有楽不動産㈱、ピーエス・コンストラクション㈱、大成ユーレック㈱、大成設備㈱、成和リニューアルワークス㈱、
㈱ジェイファスト、大成建設ハウジング㈱、㈱佐藤秀

※2 2023年度よりカテゴリ1及び11の算定方法を見直したため、同様の算定方法で2022年度の排出量を再算定。詳細は当社Webサイト大成建設のマテリアル
フロー内注釈をご覧ください

4. 統合的な環境経営情報開示 (TCFD/CE/TNFD)



4. 統合的な環境経営情報開示 自然への影響と依存の分析

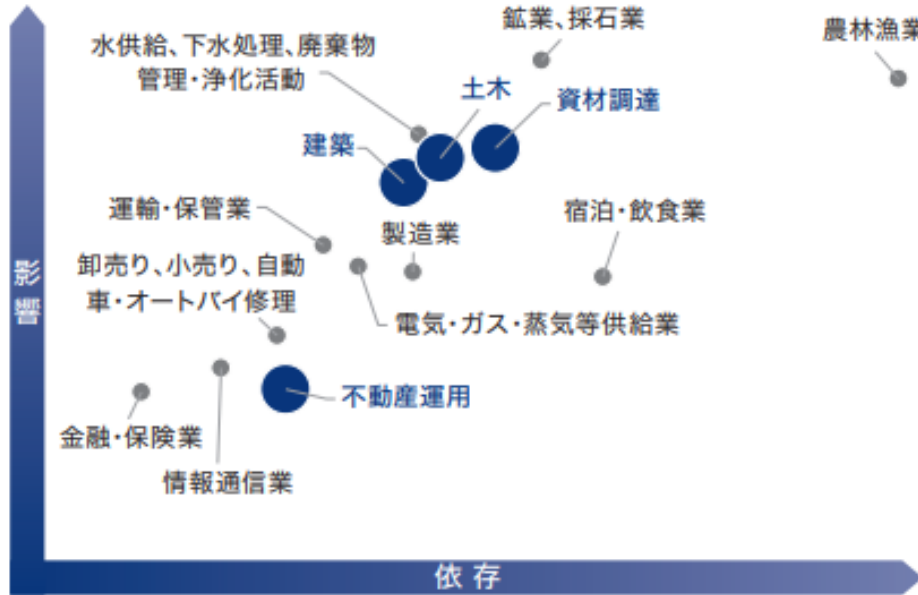
建設工事って自然破壊してるよね…

建設会社がネーチャーポジティブ!?

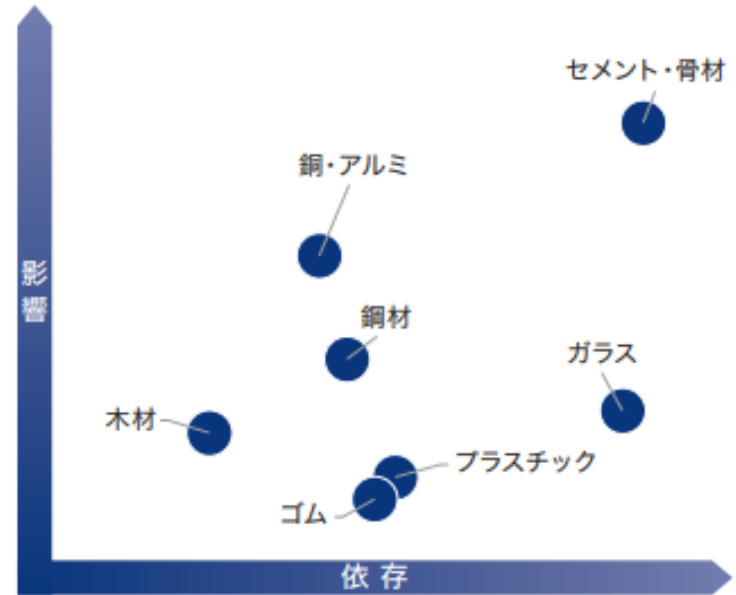
建設事業（含バリューチェーン）が自然資本に及ぼす影響・依存を評価・見える化



建設事業・バリューチェーン



主要建設資材



※ENCORE：国連環境計画世界自然保全モニタリングセンター（UNEP-WCMC）や自然資本金融同盟（NCFA）などによって開発された、自然への依存・インパクト評価ツール

- 建設事業・資材調達が自然に及ぼす影響・依存は他の産業に比べ相対的に高い
- 主要建設資材のうち、セメント・骨材は影響・依存ともに非常に高い

5. 当社の自然環境保全技術 (1) いきものコンシェルジュ

多様な生物が生育・生息する事業計画づくりに向けた自然環境保全技術

計画地及びその周辺の生物多様性を高める計画づくり・立案を簡便・迅速に提供するツール

独自のデータベース

生物専門家の知見やノウハウをデータ化して集

飛来する動物が対象



周辺環境情報の入力
緑が多いエリアor市街地エリアか。
(+面積・水辺の有無・海域の有無)



計画内容の入力

「樹林」・「草地」・「水辺」それぞれの情報を入力
(計画地に導入したい微環境)

【例：樹林】

樹林(複層林・単層林)、孤立木、並木か。
+面積規模(大・中・小規模・存在有無等)

【例：水辺】

沼・ため池等、流水、湧水、水性植物群落有無

+ (面積・水辺の有無・海域の有無)等

アウトプット

飛来してくる動物(鳥類・チョウ類・トンボ類)を予測し、計画づくりを評価・フィードバック。

<導入に伴うメリット>

企画・計画段階から、希少動植物の保全計画を検討し、事業計画に反映することが可能。

5. 当社の自然環境保全技術 (2) 森コンシェルジュ

開発対象となりやすい二次的自然（里地里山環境～森林環境）の自然環境保全技術

計画地及びその周辺の微環境に適した緑化計画立案に必要な情報を簡便・迅速に提供するツール

独自のデータベース

生物専門家の知見やノウハウをデータ化して集積

日本全国の植物群落を対象

- ・インデ-タブノキ群集
- ・ホソバカナワラビ-スダジ群集
- ・シラカシ群集
- ・クリ-ミズナラ群集 等

植物群落を知る

保全を計画する

創りたいみどりとその組み合わせを提案

計画地を設定（潜在自然植生の確認）

Step4 使うみどりを選ぶ

種名	科名	生活型	花期	照陰	選好
シラカシ	ブナ科	常緑木	5月	日陰	○
アサキ	ニホウ科	落葉木	4月～5月	日陰	○
アカカシ	ブナ科	常緑木	5月～6月	日陰	○
アカカシ	ブナ科	常緑木	5月	日陰	○
アカカシ	ブナ科	常緑木	4月～5月	日陰	○
カシノ木	クスノキ科	常緑木	4月～5月	日陰	○
モミ	マツ科	常緑木	5月	日陰	○

他のタイプも選ぶ 選んだみどりをリストアップ

Step1 現場の潜在自然植生をみてよう

計画地周辺の潜在自然植生

潜在自然植生の表示 ON OFF

凡例

- インデ-タブノキ群集
- ホソバカナワラビ-スダジ群集
- サブコシカシ群集
- シラカシ群集
- イロハモミジクマノ木群集
- シキミモミ群集
- マツノ木群集
- ムクノ木群集

凡例番号も入力 5 決定

階層構造や特徴、構成する主な樹種の確認

創り出したいみどりの姿を選択（遷移段階を踏まえた植生の選択）

Step3 みどりの構成をみてみよう

選んだみどりの構成

樹種： 常緑広葉樹林

構成： 常緑木、落葉木、常緑木、常緑木の層、常緑木-50cm未満

特徴： 常緑広葉樹林、日陰、中層の常緑木が特徴的。日陰、中層の常緑木が特徴的。日陰、中層の常緑木が特徴的。

分科： 日陰、中層、常緑木(常緑広葉樹林)

植物リストへ

Step2 創りたいみどりを選ぶ

計画地の群落

樹木林

樹種： クスノキ科常緑木、マツノ木群集

樹種： 常緑木

樹種： 常緑木

草層 (1年草)

草層 (多年草)

先駆性層樹林

ツル・低木

従来手法

文献調査
専門家ヒアリング

現地調査

緑化計画の
立案・検討

計画資料作成・
関係者で共有

森コンシェルジュ

計画地の住所
創りたい緑のタイプ

創りたい緑：植物群落
植物の組み合わせ

計画地の気候風土に適した
緑地計画を立案

・事業計画地の気象風土で適していない緑地計画を導入するリスクを回避・軽減できます。

5. 当社の自然環境保全技術 (2) 森コンシェルジュ

<事例：富士山南陵工業団地開発事業> 2022年6月 第49回「環境賞」環境大臣賞受賞

➤ 里山環境の保全・創出事例

：開発により消失する森林環境の保全計画を立案し、代償となる森の人工的創出に成功

【植栽時 2009年】



【5年後 2014年】



【10年後 2019年】



想定通り強い樹木が勝ち残り、森への植生遷移が進行中

ハードの取組み

自然環境の保全と再生

×

ソフトの取組み

**人と自然を結びつける
新しい付加価値の創造**



ツリークライミング



市民講座



どんぐり採取～育成



エコスタック・堆肥場づくり

※環境教育・市民活動の活動の場としての提供

5. 当社の自然環境保全技術 (4) 森林のサーキュラーエコノミー

<事例：OKI本庄工場>

【凡例】

管理・所有者

実施者

活用者

森林組合

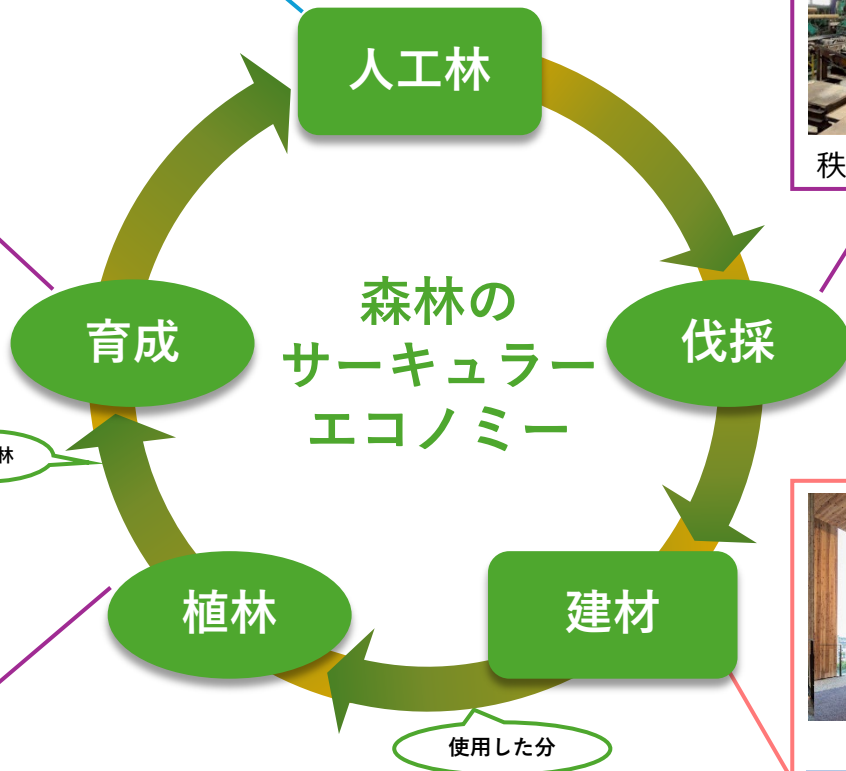
森林組合

森林組合

秩父の山から木材を調達

材を産出した山に植林

OKI 沖電気工業株式会社



地産地消・地域循環

秩父産の木材を積極的に使用

OKI 本庄工場

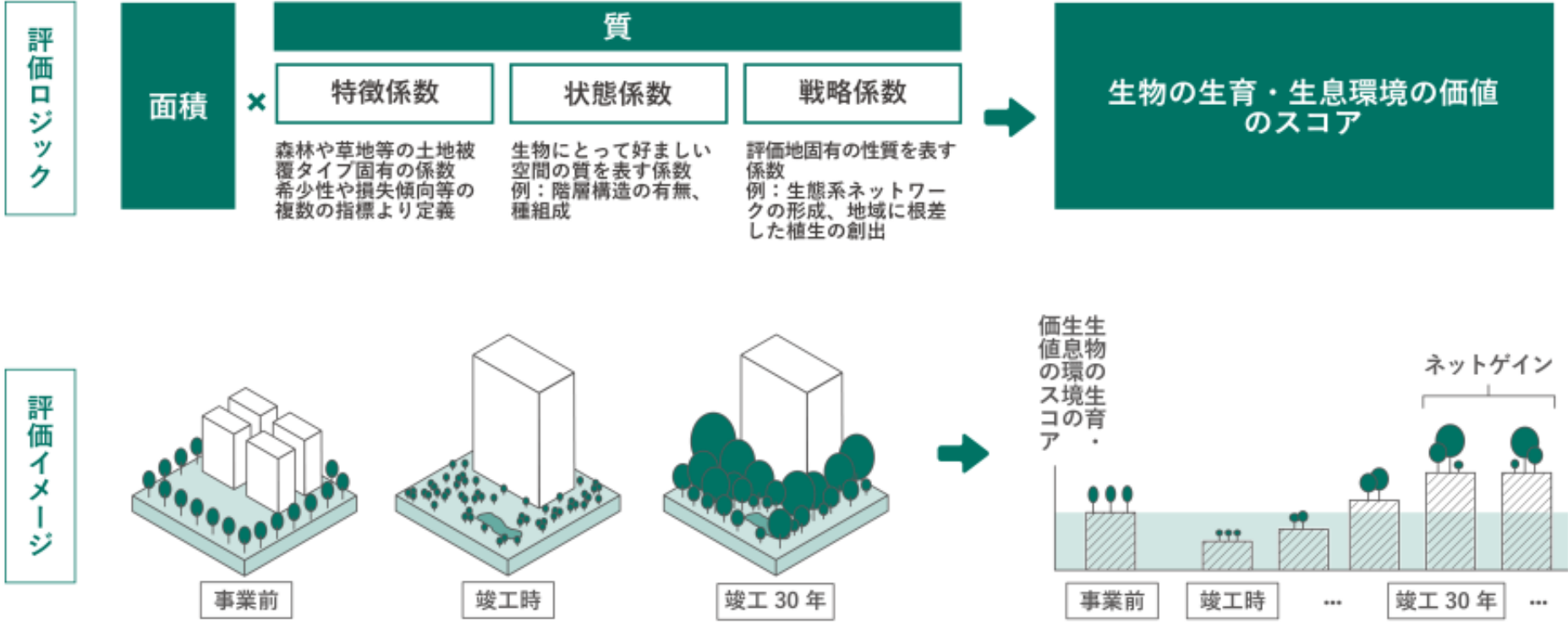
沖電気工業株式会社

使用した分の森林

- ・再生林費用の一部を負担
- ・植林活動に参加

6. ネーチャーポジティブ評価

- イングランドの評価手法である“Biodiversity Metric”を参考に構築、各種係数を日本の環境に適合するよう設計
- 土地改変が予定あるいは既に行われた土地について、その前後のスコアを比較することで、土地改変が生物の生育・生息環境に与える影響を客観的に把握・評価することが可能





 **大成建設**
For a Lively World

ネイチャーポジティブ

大成建設ネイチャーポジティブ